

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400168		
法人名	社会福祉法人やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	宮城県東松島市牛網字駅前二丁目29-12		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0471400168&SCD=320&PCD=04
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの考え方として、社会福祉事業を行うにあたり、社会へ貢献するには、出来る限りの低価格で且つ質の高いケアを目標とし、ご家族への負担も軽減できればと日々努力しております。ご利用されている方々に、少しでもよりよい生活を送っていただけるよう、敷地内に花YATAIを設置し季節の花々を利用者様と育てています。環境づくりを含めて、今後も利用者様の「利用者らしさ」を引き出すために職員一同邁進していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR仙石線小野駅近くの小野駅前仮設住宅の一角に、平成23年10月に仮設ホームを開所した。東日本大震災で被災した利用者や家族、職員が三位一体となって支え合うことを心がけている。「原点に戻って利用者の人生を大切に、生活の場を見つめ直します」と謳った基本理念を毎週月曜日に朝礼で唱和、常に管理者と職員は理念を共有し、ケアを振り返り実践している。日頃から市の職員とも緊密な連携が図られ、協力体制が築かれている。また仮設ホームでの夜勤2人体制は利用者、家族へ安心感をもたらしている。ボランティアとの触れ合いも震災1年半過ぎた今も継続しており、ボランティアが利用者と共に楽しむ花の植栽や歌や踊りがホームでの潤いのあるくらしに貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームやすらぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、尊厳が維持されたままその方らしい生活が継続される事を基本として理念を作成。新任研修の際に理念を説明し理解して実践に繋がられるよう、意識の統一を図っている。	原点に立ち返り、尊厳を持って利用者の人生に寄り添い分かち合う事を基本理念としている。理念は事務室や玄関に掲示、職員はいつも携帯し、自身のケアの振り返りをするなど常に実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の祭りや行事にも進んで出かけ地域の子供たちや集会所に集まっている方々とも会話が生まれています。	全国からボランティア(阿波おどり・花の植栽・マッサージなど)が訪れ、特に花壇の植栽ボランティアは定着している。地域の敬老会に利用者も参加したり、仮設住宅の住民とも挨拶を交わすなど地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方々と会話の機会をもち、事業所や入居している方々の認知症の理解をすすめている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催、話し合いでの意見を行事などに活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回第3水曜日に利用者代表・家族代表・地域代表・地域包括職員・市の職員の参加で開催している。事業所の取組み・入居状況・家族会の役割など活発に意見交換が行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡や質疑のある際に連携をかかさず相談がある時にもその都度協力をいただいている。	避難所生活時には毎日市の職員が訪れたり、運営推進会議では復旧・復興の課題解決に協力するなど緊密な関係が築かれている。外部評価にも必ず同席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスターの掲示やミーティングの際に機会を作り理解を深める。身体拘束委員会を設置、常にケアに留意し、年に一回見直しを行っている。拘束は行っていない。	身体拘束委員会を設置、全職員でケアや設備の点で身体拘束をしていないかどうかやスタッフの意識などについて話し合い、問題点の見直しに取り組んでいる。他の福祉施設ともネットワークがあり、徘徊の通報等がされ利用者の安全に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加。ミーティングの際に機会を作り理解を深める。スタッフ同士啓発し合い職務にあたっている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し職員に説明し、運営推進会議の場で市職員からも説明いただき学ぶ機会が持たれた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容や重要事項の説明のほか、利用料金やその内訳、重度化の際の対応、利用にあたって望んでいることを確認し、ご家族とホームとの認識にズレがないよう留意している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族世話人会や運営推進会議の他、面会時の様子報告とケアプランの説明の際要望を聞いてます。職員が普段の会話から察して検討を行ったり、管理者が会話にて引き出したりしている。	家族世話人会や面談、運営推進会議などで利用者や家族から意見や要望を聞いている。家族世話人会は6月に総会を開催し、家族、職員、利用者が共に課題を共有し合い、出された意見や要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からの報告のほか、話す機会を多くし気軽に意見が聞けるようにしている。	普段から職員に声がけし、意見や要望を聞き、運営に反映させている。6月からは「気づきノート」を設置し、利用者についての気づきを記録し改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を実施。日々業務の会話の中で各自の向上心や努力目標を把握し、やりがいが持てるよう指導していく。また子育て支援につながるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得に力をいれており、受験者のみでなく、若い職員にも知識の共有を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の計らいとして地域密着型サービス連絡会議が発足され、協同がなされている。研修の場において他事業所との意見交換もありスキルアップにいかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴やバイタル測定時に職員と1対1で向き合う時に不安や悩みなど現状を確認したり、また自室で向き合える時間を設け、今後のケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一つ一つ現状を確認し、時間をかけて想いを聞く。当事業所として提供できるサービスがどのようなものかを説明します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を把握し、望まれる対応を提案。担当ケアマネージャーとの連絡も併せて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿い、人生の先輩として常に尊敬の念を失わず、日常的な関わりの際にも感謝すること、支えあう気持ちを持って過ごせるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族、職員が三位一体となり、支えあう必要性を入居時に説明。家族の負担を考えながらの定期報告、必要時の電話連絡、面会時にもすすんで職員から声をかけ支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の店での買い物、散歩中の地元の方との交流など継続的な支援をしている。	本人の希望で震災前住んでいた場所や馴染んでいたスーパーなどに行きたい要望に1対1で対応している。また家族と共に墓参りへ行ったり、友人の来訪や訪問理容の利用もあり、人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時やお茶飲み、外出の機会に職員が話題を提供することで利用にコミュニケーション援助を行っている。耳が聞こえにくい方や認知度の低い方との関わりにおいては、必要に応じて職員が仲介役となり援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の状態報告の電話をいただき、気軽に家族の問い合わせにも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から生活習慣等の情報を収集。入居後もご本人の言葉や行動を観察し、家族面会時に情報を得ながらご本人の希望する生活環境作りを検討している。	入居前から本人の生活習慣や希望を把握し、入居後は家族に毎月様子を報告するなど利用者・事業者・家族が一体となって心のケアや生活環境作りに取り組んでいる。	利用者・家族が満足し、職員にとって達成感が得られる更に良いケアを目指すために、利用者の思いを事前に察知するなど、より深く認知症について理解する学習機会を作ることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族やケアマネより聞き取る。負担のない範囲で家族の名前やご本人・ご家族の愛称、名前を記入していただく。印象の強かったことやどのような仕事、生活をしていたか、バックグラウンドを把握していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や手指の巧緻性、できる・したい・わかる・ことを一つ一つ確認しながら意欲を持った生活に繋がるよう日々の記録を基にカンファレンスを通して現状を把握し必要とされているケアへ繋げる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、ご本人やご家族からの要望を取り入れ、職員が聞き取ったり感じたりしたことを持ち寄り、ケアの実施と結果をもとにカンファレンスを行いプラン作成に繋がっている。	利用者や家族からの要望を取り入れたケアプランを作成し、毎月1回モニタリングを行い利用者の状態によって見直しを行なっている。利用間もない方は1週間ごとにモニタリングを行う。記録は職員で共有し意見交換するなどし、ケアプランの見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、ケアプランの実施チェックも併せて行う。排泄、食事、バイタル、入浴の有無や体重の変化等にも留意し、ふだんからの気づきも記入。見直しの際にそれらをふまえて作成に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでのかかりつけ病院への受診協力。また、身体面での変化があった際はご本人やご家族の希望をふまえて、ご家族との連携のもと受診や送迎など必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防署との防災訓練。また、夕涼み会においては地区の子供たちが参加してふれあいの場を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ病院が継続可能としており、希望する医療の受診を支援している。また、常勤で看護師もいます。	かかりつけ医受診は継続的に支援している。通院は家族が付き添うことが基本で、受診結果は報告してもらい、職員が付き添った場合は家族に報告するなど家族との連携を図っている。また常勤看護師が健康チェックを行ない体調変化に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師によるバイタルの変化にもすぐ対応できる状況にあり、早めの病院受診が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院にはその都度対応する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りの対応をかかりつけ医と連携をとりながらの体制ができています。	仮設ホームの状況にあり、看取り指針はない。ホーム再建後に指針を作成する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化されており、救急救命講習を受講。AEDも設置されており使用出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の連絡網あり。防災訓練も夜間想定しながら行う。非常食、水の備蓄あり。避難マニュアルもあり、対応法の周知徹底。	避難マニュアルや職員連絡網があり、役割分担により周知徹底され、非常用備蓄も常時3日分保管されている。9月には消防署立会いの夜間想定避難訓練が予定されている。	実施予定の夜間想定避難訓練から課題を洗い出し、利用者・家族・職員が安全に安心して生活できるように検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿って日頃より尊敬の念をもった対応を心がけている。個人情報に関しては、職員一人一人が常に自覚を持ち、特に外部からの電話での問い合わせについては十分な注意をしている。	プライバシー保護方針を作成し職員で共有を図り、理念にそって謙虚な姿勢で対応している。個人情報に関しては特に気を配り、他にもらさないように留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念に沿い、選択の自由・選択のしやすさを心がけ、ご本人の意思で選択できる機会、決定する機会(外出や献立など)を設け、ご本人の意思を尊重した関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に耳を傾け、その方のペースに合わせて関わりを持ち急かしたり待たせたりが繰り返さず起こらないよう職員間で検討、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本的にはご本人の意思により決定。不備な部分については援助させていただく。理容・美容は御家族と連携をとりながら継続している。ボランティアの化粧(集会所)に参加あり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主食は一人ひとりの好みに合わせた食事形態で対応。誕生日には希望のメニューでお祝いします。下ごしらえや後片付けは職員と共同で行っている。	主食は利用者の好みに合わせて対応している。誕生日には好きなメニューでお祝いをし、敬老会では赤飯や刺身などお祝いのメニューで食事を楽しんでいる。栄養士が栄養チェックも行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴等を踏まえてご本人やご家族と相談。体力、病状により食事摂取量を把握し栄養バランスに気をつけ、水分補給はゼリードリンクなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に肺炎や認知症への影響を説明し、口腔ケアの重要性を確認。就寝前の口腔ケアを実施。義歯の不具合や炎症などの際はご家族の連携のもと歯科受診をすすめ、早期に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のプライバシーや生活習慣に合わせての声掛けや誘導を実施。居室のレイアウト(ベッドの位置など)は身体能力・認知度を考慮し、ご本人が一番生活しやすい形を支援している。	排泄チェック表に基づいて排泄パターンを把握し個々に合わせて誘導を行っている。失敗した場合は何気なく風呂場に誘導するなどの配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、運動・食事(繊維質の摂取)水分を多く摂るよう促している。便座使用時や入浴時に腹部マッサージをしたり個別対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は平日の日中、有事の際医療機関を受診できる時間帯に実施。順番も本人の意向を尊重し納得していただきながら実施。希望により同性介護も実施。	入浴の回数や順番、湯加減は希望に応じている。医療機関での対応が可能な時間帯に入浴を行なっている。拒否傾向の利用者への対応も根気強く行うなど個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃午前中は活動を促し、午後はゆったりした時間の提供を心がけている。寝つきにくい方には温かい飲み物を用意し、部屋かりビングで話し相手になって気持ちの安定を図る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬量や方法をファイルし、どのような薬をいつ服用するのか間違わず、と同時に氏名の再度の確認と変更があった際の全職員への周知と変化に留意する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのADLに合わせて役割活動を促し、感謝の気持ちやほめる事を大切にしている。また、生活歴に応じて継続的に支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のよい日には市内のドライブや散歩を実施。理念に沿って用事があるほか、いつもと違ったものが食べたいとかなどの要望をすすんで実施。またご家族の方との連携により自宅などへの外出をしていただいている。	花見・あやめまつり・紅葉狩り・菊祭り・初詣・白鳥の見学などの年間行事計画があり、外出支援を行なっている。外出には車椅子対応の車を使用し安全に外出できるよう支援している。また家族と連携し墓参りや外泊も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに合わせて財布やバッグを所持していただき、買い物や散歩時、外食時に使うことができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間を持つ建物のなかにあって、安全面を考慮しながら置物、インテリアの配置をしている。ソファ等を取り入れ落ち着ける空間となるよう努めている。	リビング兼食堂は明るく、温度・湿度も適切に管理され、正面には見当識を刺激しやすいように時計やカレンダーが配置され、壁面には花や花火の写真、全国からの色紙などが飾られ、暖かい雰囲気が漂っている。また同法人の特養施設に在った合同位牌がリビングに供えられ、利用者、職員で大切に供養している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に椅子やテーブルを置き、セミパブリックスペースを設け自由に過ごしていただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人よりも先に家具を入れていただくように勧めています。が被災されていますので馴染みの持ち物も少ないようです。	家族が被災した方は馴染みのものを失い、持ち物は最小限となっている。一方自宅が残った方は馴染みのものを家族が用意し、その方らしい部屋づくりとなっている。転倒の危険のある方には、すぐに対応できるような配慮と工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現在の状況に合わせ、脱衣所・浴槽が滑らない様、出来るだけ乾燥状態にしている。トイレなど平面の名札だけでなく立体的なものでできることを支援しながらリスクの減少とすすんで活動しやすい環境設定を行う。		